

が高いほど、コンフリクトの度合いが高いことを示す。

蓄積疲労度：簡約版蓄積疲労徴候スケール 18 項目 (CFSI-18)

診療所医師、訪問看護師の蓄積疲労の測定には、簡約版蓄積疲労徴候スケール 18 項目 (CFSI-18) ⁶⁾を用いた。項目は表 5 の通りである。各項目に対して「はい」と回答した場合、1 点を与えて単純加算する。合計得点が高いほど、蓄積疲労徴候が高いことを示す。

介護負担感：Zarit 介護負担尺度日本語版 (J-ZBI) 短縮版

家族の介護負担感の測定には Zarit 介護負担尺度日本語版 (J-ZBI) 短縮版 ⁷⁾を用いた。項目は表 6 に示した。総得点は「思わない」を 1 点、「いつも思う」を 5 点として、合計した。Personal Strain、Role Strain は表 7 の計算式で算出した。総得点、Personal Strain、Role Strain のいずれも得点が高いほど、負担感が強いことを示す。

表 1 本調査で使用した Job Content Questionnaire (JCQ) の質問項目

- | |
|-------------------------------------|
| 問 1. 新しいことを覚えることが必要な仕事だ。 |
| 問 2. くり返しの作業がたくさんある仕事だ。 |
| 問 3. 創造性が必要な仕事だ。 |
| 問 4. 自分自身でどのように仕事をするか決めることができる。 |
| 問 5. たくさんの技術や知識が必要な仕事だ。 |
| 問 6. どのように仕事をすすめるか決める自由は、私にはほとんどない。 |
| 問 7. 仕事の中で、何種類も別々のことをする機会がある。 |
| 問 8. 自分の仕事の予定を決めることができる。 |
| 問 9. 自分自身の特別な才能をのばす機会がある。 |
| 問 10. とても速く働くことが必要な仕事だ。 |
| 問 11. とても一生懸命に働くことが必要な仕事だ。 |
| 問 12. あまりに多すぎる仕事を頼まれることはない。 |
| 問 13. 仕事をやり終えるのに十分な時間が与えられている。 |
| 問 14. 他の人達からお互いにくい違う指示を出されて困ることはない。 |

表 2 JCQ の下位尺度の計算方法

$\text{Decision Latitude} = \text{Skill Discretion} + \text{Decision Authority}$ $\text{Skill Discretion} = (\text{問 1} + \text{問 3} + \text{問 5} + \text{問 7} + \text{問 9} + (5 \cdot \text{問 2})) \times 2$ $\text{Decision Authority} = (\text{問 4} + \text{問 8} + (5 \cdot \text{問 6})) \times 4$ $\text{Psychological Demands} = (\text{問 10} + \text{問 11}) \times 3 + (15 \cdot (\text{問 12} + \text{問 13} + \text{問 14})) \times 2$
--

表 3 ワーク・ファミリー・コンフリクト尺度 (WFCS) の質問項目

<p>問 1. 自分が家族と過ごしたい時間を、思っている以上に仕事にとられる。</p> <p>問 2. 仕事に時間が取られるため、仕事と同様に家庭での責任や家事をする時間が取りにくい。</p> <p>問 3. 職務を果たすのに多くの時間を使うため、家族との活動ができないことがある。</p> <p>問 4. 家族としての責任に時間を費やすために、自分の職務が妨げられることがよくある。</p> <p>問 5. 家族と時間を過ごすために、自分のキャリアアップに役立つ職場での活動に時間をかけられないことがよくある。</p> <p>問 6. 家族としての責任を果たすために多くの時間を使うので、仕事の活動が犠牲になっている。</p> <p>問 7. 仕事から帰った時、くたくたに疲れていて、家族といろいろなことをしたり、家族としての責任が果たせないことがよくある。</p> <p>問 8. 仕事から帰った時、精神的に疲れ切っていて、家族のために何もすることが出来ないことがよくある。</p> <p>問 9. 職場でのストレスのために、家に帰っても自分が好きなことさえ出来ないことがある。</p> <p>問 10. 家庭でのストレスのために、職場でも家族のことが頭を離れないことがよくある。</p> <p>問 11. 家庭での責任からくるストレスがよくあるので、仕事に集中するのが難しいことがある。</p> <p>問 12. 家庭生活の緊張と不安のため、往々にして仕事をする能力が低下してしまう。</p> <p>問 13. 仕事の際に使う問題解決行動は、家庭での問題解決には効果的でない。</p> <p>問 14. 職場で、有効かつ必要な態度や行動は、家庭ではむしろ逆効果だろう。</p> <p>問 15. 職場では効果的な行動は、良い親や配偶者となるには役に立たない。</p> <p>問 16. 家庭ではうまくいく行動が、職場では効果的でないように思う。</p> <p>問 17. 家庭では有効かつ必要な態度や行動は、職場ではむしろ逆効果だろう。</p> <p>問 18. 家庭で、問題をうまく解決する行動は、職場では有用でないように思う。</p>
--

表 4 ワーク・ファミリー・コンフリクト尺度 (WFCS) の計算方法

1. 総得点 (問 1～問 18 の合計) \div 18
2. 2 因子
2-1. 仕事から家庭への葛藤 (Work interference with family) の得点 : (問 1～問 3、問 7～問 9、問 13～問 15 の合計) \div 9
2-2. 家庭から仕事への葛藤 (Family interference with work) の得点 : (問 4～問 6、問 10～問 12、問 16～問 18 の合計) \div 9
3. 6 因子
3-1. 時間に基づく仕事から家庭への葛藤の得点 (Time-based work interference with family) : (問 1～問 3 の合計) \div 3
3-2. 時間に基づく家庭から仕事への葛藤の得点 (Time-based family interference with work) : (問 4～問 6 の合計) \div 3
3-3. ストレス反応に基づく仕事から家庭への葛藤 (Strain-based work interference with family) : (問 7～問 9 の合計) \div 3
3-4. ストレス反応に基づく家庭から仕事への葛藤 (Strain-based family interference with work) : (問 10～問 12 の合計) \div 3
3-5. 行動に基づく仕事から家庭への葛藤 (Behavior-based work interference with family) : (問 13～問 15 の合計) \div 3
3-6. 行動に基づく家庭から仕事への葛藤 (Behavior-based family interference with work) : (問 16～問 18 の合計) \div 3

表 5 簡約版蓄積疲労徴候スケール 18 項目 (CFSI-18) の項目

1. このごろ全身がだるい
2. 腰が重い
3. 目が疲れる
4. よく肩がこる
5. 胃腸の調子がわるい
6. しばしば目まいがする
7. このところ頭が重い
8. 風邪をひきやすい
9. 疲れやすい
10. このところ寝つきがよくない
11. 根気が続かない
12. 自分の好きなことでもやる気がしない
13. 頭がさえない
14. イライラすることが多い
15. ささいなことが気になる
16. 心配ごとが多い
17. 気が散ることが多い
18. 生活にはりあいを感しない

表 6 Zarit 介護負担尺度日本語版短縮版の項目

- 問 1. 介護を受けている方の行動に対し、困ってしまうと思うことがありますか。
- 問 2. 介護を受けている方のそばにいと腹が立つことがありますか。
- 問 3. 介護があるので、家族や友人と付き合いづらくなっていると思いますか。
- 問 4. 介護を受けている方のそばにいと、気が休まらないと思いますか。
- 問 5. 介護があるので、自分の社会参加の機会が減ったと思うことがありますか。
- 問 6. 介護を受けている方が家にいるので、友人を自宅によびたくても呼べないと思ったことはありますか。
- 問 7. 介護をだれかに任せてしまいたいと思うことがありますか。
- 問 8. 介護を受けている方に対して、どうしていいかわからないと思うことがありますか。

表 7 Zarit 介護負担尺度日本語版短縮版の計算方法

$$\text{Personal Strain} = \text{問 1} + \text{問 2} + \text{問 4} + \text{問 7} + \text{問 8}$$

$$\text{Role Strain} = \text{問 3} + \text{問 5} + \text{問 6}$$

集計対象と分析

1) 診療所医師、訪問看護師、患者、家族ごとの単純集計

診療所医師、訪問看護師、患者、家族返送された質問紙それぞれについて、質問項目の単純集計を行った。年齢や尺度得点などの連続変量については、平均値、標準偏差、最小値、中央値、最大値を算出した。なお、特定の事例を選択して回答を依頼した内容に関しては、過去3か月の事例を選んで回答を依頼したことから、本報告書では事例の日付が2014年7月以降2015年2月までのものを抽出して集計した。

2) 同一事例での回答の比較

同一事例について複数の者から回答が得られた場合に限って、同じ内容の質問に対する回答を比較した。

なお、いずれの集計においても無回答や不正回答は除外して割合を算出した。

倫理的配慮

研究対象者には在宅療養中の患者、家族が含まれることから、身体・精神状態が安定しない可能性がある場合は、状態が安定するまで調査を待機すること、また回答は自由意思に基づくものであり、無理に調査を進めることがないよう、診療所医師、訪問看護師に依頼した。

診療所医師、訪問看護師、患者、家族の調査票を分けて、別々に郵送回収を依頼することで、互いの回答をみることがないようにした。また、患者、家族への依頼状には、質問紙への回答が日常の訪問診療や訪問看護に影響を与えないこと、および回答は自由意思によるものであることを明記した。

本調査は東京大学の倫理審査の承認を受けて実施した。(承認番号:10685)

C. 研究結果

結果 1. 質問紙の回収結果

1-1. 第一段階：協力意向の調査

診療所医師票は、12,976 票のうち住所不明のため未着が 71 票あったため、実際の発送数は 12,905 票であった。回収数は 2,709 票で回収率は 21.0%であった。うち、協力意向ありは 995 票であった。

訪問看護師票は、8,235 件のうち住所不明のため未着が 151 票あったため、実際の発送数は 8,084 票であった。回収数は 2,505 票で回収率は 31.0%であった。うち、協力意向ありは 994 票であった。

表 8 第一段階の回収結果

	発送数	回収数（回収率）	
		協力意向あり	協力意向なし
診療所医師	12,905	2,709 (21.0%)	1,714 (13.3%)
訪問看護師	8,084	2,505 (31.0%)	1,511 (18.7%)

1-2. 第二段階：実調査

第一段階で協力意向を得た診療所医師 995 件を施設住所地の市区町村別に a)505 と b)490 に振り分けた。a)に振り分けられた診療所医師には、質問紙を 4 種類（診療所医師票、訪問看護師票、患者票、家族票）、b)に振り分けられた診療所医師には質問紙を 3 種類（診療所医師票、患者票、家族票）同封し送付した。同様に、協力意向を得た訪問看護師 994 件を事業所住所地の市区町村別に c)484 と d)510 に振り分けた。c)に振り分けられた訪問看護師には、質問紙を 4 種類（診療所医師票、訪問看護師票、患者票、家族票）、d)に振り分けられた訪問看護師には質問紙を 3 種類（訪問看護師票、患者票、家族票）を同封し送付した。

表 9 第二段階の回収結果

		同封質問紙			
		診療所医師	訪問看護師	患者	家族
組み合わせ	a)505 セット	◎	○	○	○
	b)490 セット	◎	-	○	○
	c)484 セット	○	◎	○	○
	d)510 セット	-	◎	○	○
発送数		1,479	1,499	1,989	1,989
回収数 (回収率)		405 (27.4%)	536 (35.8%)	553 (27.8%)	493 (24.8%)

◎は調査窓口を示す。調査窓口の診療所医師または訪問看護師は、臨時対応事例を選定し、選択事例の該当者へ質問紙を転送する。

対象別の質問紙発送数は、診療所医師 1,479 票、訪問看護師 1,499 票、患者及び家族 1,989 票であった。回収数及び回収率は、診療所医師 405 票（27.4%）、訪問看護師 536（35.8%）、患者 553（27.8%）、家族 493（24.8%）であった。

また、調査実施中寄せられた個別の問い合わせ計 99 件のうち、調査協力ができない理由として、当該診療所、訪問看護ステーションにおいて指定した期間に夜間休日臨時対応が生じた患者がいないという内容が 32 件（32.3%）と最多であった。

結果 2. 診療所医師の回答

2-1. 回答者の属性

性別

男性が 90.3%を占めていた。

表 10 性別 (n=383)

	度数	割合
男性	346	90.3%
女性	37	9.7%

年齢

平均は 56.0 歳、標準偏差は 10.6 年、中央値は 57 歳であった。

表 11 年齢の記述統計 (n=378)

度数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
378	56.0	10.6	29	57.0	92

表 12 年齢階級別分布 (n=377)

	度数	割合
30 歳～34 歳	12	3.2%
35 歳～39 歳	8	2.1%
40 歳～44 歳	36	9.5%
45 歳～49 歳	39	10.3%
50 歳～54 歳	65	17.2%
55 歳～59 歳	72	19.1%
60 歳～64 歳	58	15.4%
65 歳～69 歳	53	14.1%
70 歳～74 歳	23	6.1%
75 歳～79 歳	6	1.6%
80 歳～84 歳	4	1.1%
90 歳～94 歳	1	0.3%

経験年数

医師としての経験年数の平均は 29.6 年、標準偏差は 10.7 年、中央値は 30 年であった。
訪問診療の経験年数の平均は 14.4 年、標準偏差は 9.4 年、中央値は 14 年であった。

表 13 医師としての経験年数 (n=376)

度数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
376	29.6	10.7	1	30.0	67

表 14 訪問診療の経験年数 (n=370)

度数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
370	14.4	9.4	0	14.0	57

職位

院長／診療科責任者が最も多く、90.3%を占めていた。

表 15 職位 (n=381)

	度数	割合
院長／診療科責任者	344	90.3%
スタッフ医師	33	8.7%
後期研修医	1	0.3%
その他	3	0.8%

配偶者の有無

配偶者のある方が 92.7%を占めていた。

表 16 配偶者の有無 (n=382)

	度数	割合
有	354	92.7%
無	28	7.3%

子供の有無

子供がいる方が 351 名 (92.4%) であった。

表 17 子供の有無 (n=380)

	度数	割合
有	351	92.4%
無	29	7.6%

家庭での役割

家庭で主たる担当として担っている役割を尋ねたところ、子育てが 77 名 (19.0%)、介護が 13 名 (3.2%) であった。

表 18 家庭での役割 (複数回答、n=405)

	度数	割合
子育て	77	19.0%
介護	13	3.2%
炊事	57	14.1%
洗濯	50	12.3%
掃除	75	18.5%
その他	185	45.7%

通勤時間

住んでいる場所から職場までの所要時間を尋ねた。5 分未満という方が 170 名 (44.7%) であった。

表 19 通勤時間 (n=380)

	度数	割合
5 分未満	170	44.7%
15 分未満	82	21.6%
30 分未満	57	15.0%
1 時間未満	53	13.9%
1 時間以上	18	4.7%

前年の収入

2013 年の収入について、6 つの選択肢を用いて尋ねた。1500 万円以上 2000 万円未満という方が最も多く、83 名であった。3000 万円以上という方も 82 名と同等であった。

表 20 前年の収入 (n=334)

	度数	割合
500 万円未満	12	3.6%
1000 万円未満	28	8.4%
1500 万円未満	67	20.1%
2000 万円未満	83	24.9%
3000 万円未満	62	18.6%
3000 万円以上	82	24.6%

2-2. 回答者の所属機関の属性

職員数

医師数（実人員）は平均 2.8 名、標準偏差 6.3 名、中央値は 1 名であった。院長本人を除いて、院長の親族について尋ねたところ、平均 0.4 名、標準偏差 0.7 名であった。常勤換算で医師数は平均 1.9 名、標準偏差 5.4 名、看護師数は平均 5.8 名、標準偏差 27.8 名、事務職員数は平均 3.6 名、標準偏差 7.4 名であった。

表 21 医師数（実人員）（n=359）

度数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
359	2.8	6.3	1	1	85

表 22 医師数（実人員）の階級別分布（n=359）

	度数	割合
1 人～5 人未満	316	88.0%
（うち、1 人）	(208)	(57.9%)
（うち、2 人）	(75)	(20.9%)
5 人～10 人未満	28	7.8%
10 人～15 人未満	7	1.9%
15 人～20 人未満	4	1.1%
20 人～25 人未満	0	0.0%
25 人～30 人未満	0	0.0%
30 人～35 人未満	2	0.6%
35 人～40 人未満	0	0.0%
40 人～45 人未満	0	0.0%
45 人～50 人未満	0	0.0%
50 人以上	2	0.6%

表 23 医師数（院長の親族）（n=327）

度数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
327	0.4	0.7	0	0	5

表 24 医師数（院長の親族）の度数分布（n=327）

	度数	割合
0人～1人未満	236	72.2%
1人	73	22.3%
2人	11	3.4%
3人	4	1.2%
4人	2	0.6%
5人	1	0.3%

表 25 医師数（常勤換算数）（n=338）

度数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
338	1.9	5.4	0	1	98

表 26 医師数（常勤換算数）の階級別分布（n=338）

	度数	割合
0人～1人未満	9	2.7%
1人～2人未満	222	65.7%
2人～3人未満	70	20.7%
3人～4人未満	15	4.4%
4人～5人未満	9	2.7%
5人～6人未満	5	1.5%
6人～7人未満	2	0.6%
7人～8人未満	1	0.3%
8人～9人未満	1	0.3%
9人～10人未満	0	0.0%
10人以上	4	1.2%

表 27 看護師数（常勤換算数）（n=350）

度数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
350	5.8	27.8	0	3	498

表 28 看護師数（常勤換算数）の階級別分布（n=350）

	度数	割合
0 人～1 人未満	30	8.6%
1 人～5 人未満	241	68.9%
（うち、1 人）	(32)	(9.1%)
（うち、2 人）	(61)	(17.4%)
（うち、3 人）	(50)	(14.3%)
（うち、4 人）	(41)	(11.7%)
5 人～10 人未満	50	14.3%
10 人～15 人未満	15	4.3%
15 人～20 人未満	6	1.7%
20 人～25 人未満	3	0.9%
25 人～30 人未満	0	0.0%
30 人～35 人未満	1	0.3%
35 人～40 人未満	0	0.0%
40 人～45 人未満	0	0.0%
45 人～50 人未満	0	0.0%
50 人以上	4	1.1%

表 29 事務職員数（常勤換算数）（n=355）

度数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
355	3.6	7.4	0	3	131

表 30 事務職員数（常勤換算数）の階級別分布（n=355）

	度数	割合
0 人～1 人未満	8	2.3%
1 人～5 人未満	292	82.3%
（うち、1 人）	(43)	(12.1%)
（うち、2 人）	(81)	(22.8%)
（うち、3 人）	(83)	(23.4%)
（うち、4 人）	(34)	(9.6%)
5 人～10 人未満	45	12.7%
10 人～15 人未満	5	1.4%
15 人～20 人未満	1	0.3%
20 人～25 人未満	1	0.3%
25 人～30 人未満	1	0.3%
30 人～35 人未満	1	0.3%
35 人～40 人未満	0	0.0%
40 人～45 人未満	0	0.0%
45 人～50 人未満	0	0.0%
50 人以上	1	0.3%

診療所機能

有床診療所は 48 (13.3%)、無床診療所が 314 (86.7%) であった。

表 31 病床の有無 (n=362)

	度数	割合
有	48	13.3%
無	314	86.7%

法人格を有する診療所は 222 か所 (62.0%) であった。

表 32 法人格の有無 (n=358)

	度数	割合
有	222	62.0%
無	136	38.0%

訪問看護ステーションを併設している診療所は 61 か所 (16.8%) であった。

表 33 訪問看護ステーション併設の有無 (n=363)

	度数	割合
有	61	16.8%
無	302	83.2%

在宅療養支援診療所であるのは 136 か所 (40.4%)、在宅療養支援診療所以外の診療所は 115 か所 (34.1%) であった。単独の機能強化型在宅療養支援診療所は 15 か所 (4.5%)、連携型の機能強化型在宅療養支援診療所は 71 か所 (21.1%) であった。

表 34 所属する診療所の種別 (n=337)

	度数	割合
在宅療養支援診療所	136	40.4%
機能強化型在宅療養支援診療所 (単独)	15	4.5%
機能強化型在宅療養支援診療所 (連携)	71	21.1%
在宅療養支援診療所以外の診療所	115	34.1%

所属先における夜間休日の当直等の手当の状況

夜間一晩あたりの基本手当の平均は 6,550 円、標準偏差は 13,956 円であった。

表 35 夜間：基本手当（円／一晩）（n=149）

度数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
149	6,550.3	13,955.6	0	0	70,000

表 36 夜間：基本手当（円／一晩）の階級別分布（n=149）

	度数	割合
0 円	105	70.5%
1 円～9,999 円	9	6.0%
10,000 円～19,999 円	13	8.7%
20,000 円～29,999 円	7	4.7%
30,000 円～39,999 円	7	4.7%
40,000 円～49,999 円	2	1.3%
50,000 円～59,999 円	3	2.0%
60,000 円～69,999 円	2	1.3%
70,000 円～79,999 円	1	0.7%

夜間の臨時訪問 1 回あたりの手当の平均は 2,260 円、標準偏差は 5,450 円であった。

表 37 夜間：臨時訪問（円／臨時訪問 1 回）（n=123）

度数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
123	2,260.2	5,450.0	0	0	35,000

表 38 夜間：臨時訪問（円／臨時訪問 1 回）の階級別分布（n=123）

	度数	割合
0 円	96	78.0%
1 円～4,999 円	2	1.6%
5,000 円～9,999 円	9	7.3%
10,000 円～14,999 円	11	8.9%
15,000 円～19,999 円	1	0.8%
20,000 円～24,999 円	2	1.6%
25,000 円～29,999 円	1	0.8%
30,000 円～34,999 円	0	0.0%
35,000 円～39,999 円	1	0.8%

休日 1 日あたりの基本手当の平均は 11,432 円、標準偏差は 24,876 円であった。

表 39 休日：基本手当（円／日中）（n=153）

度数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
153	11,431.9	24,875.8	0	0	140,000

表 40 休日：基本手当（円／日中）の階級別分布（n=153）

	度数	割合
0 円	106	69.3%
1 円～9,999 円	9	5.9%
10,000 円～19,999 円	10	6.5%
20,000 円～29,999 円	4	2.6%
30,000 円～39,999 円	4	2.6%
40,000 円～49,999 円	1	0.7%
50,000 円～59,999 円	5	3.3%
60,000 円～69,999 円	7	4.6%
70,000 円～79,999 円	1	0.7%
80,000 円～89,999 円	2	1.3%
90,000 円～99,999 円	1	0.7%
100,000 円以上	3	2.0%

休日の臨時訪問 1 回あたりの手当の平均は 1,709 円、標準偏差は 4,162 円であった。

表 41 休日：臨時訪問（円／臨時訪問 1 回）（n=122）

度数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
122	1,709.0	4,161.9	0	0	25,000

表 42 休日：臨時訪問（円／臨時訪問 1 回）の階級別分布（n=122）

	度数	割合
0 円	97	79.5%
1 円～4,999 円	3	2.5%
5,000 円～9,999 円	10	8.2%
10,000 円～14,999 円	9	7.4%
15,000 円～19,999 円	1	0.8%
20,000 円～24,999 円	1	0.8%
25,000 円～29,999 円	1	0.8%

患者数・算定回数

過去3か月の訪問診療患者数（月平均）の中央値は20名、平均は50.6名、標準偏差は80.6名であった。

表 43 過去3か月の訪問診療患者数（月平均）（n=370）

度数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
370	50.6	80.6	0	20	620

表 44 過去3か月の訪問診療患者数（月平均）の階級別分布（n=370）

	度数	割合
0人～1人未満	10	2.7%
1人～50人未満	256	69.2%
（うち、1人～10人未満）	(105)	(28.4%)
50人～100人未満	44	11.9%
100人～150人未満	28	7.6%
150人～200人未満	12	3.2%
200人～250人未満	7	1.9%
250人～300人未満	2	0.5%
300人～350人未満	5	1.4%
350人～400人未満	2	0.5%
400人～450人未満	1	0.3%
450人以上	3	0.8%

過去3か月の往診回数（月平均）の中央値は10名、平均は36.7名、標準偏差は121.6名であった。

表 45 過去3か月の往診回数（月平均）（n=362）

度数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
362	36.7	121.6	0	10	1,500

表 46 過去3か月の往診回数（月平均）の階級別分布（n=362）

	度数	割合
0回～1回未満	21	5.8%
1回～50回未満	285	78.7%
（うち、1回～10回未満）	(153)	(42.3%)
50回～100回未満	30	8.3%
100回～150回未満	10	2.8%
150回～200回未満	4	1.1%
200回～250回未満	3	0.8%
250回～300回未満	1	0.3%
300回～350回未満	3	0.8%
350回～400回未満	1	0.3%
400回～450回未満	1	0.3%
450回以上	3	0.8%

過去3か月の緊急往診の回数（月平均）の中央値は1名。平均は4.1名、標準偏差は11.9名であった。

表 47 過去3か月の緊急往診の回数（月平均）（n=358）

度数	平均値	標準偏差	最小値	中央値	最大値
358	4.1	11.9	0	1	175

表 48 過去 3 か月の緊急往診の回数（月平均）の階級別分布（n=358）

	度数	割合
0 回～1 回未満	105	29.3%
1 回～10 回未満	214	59.8%
（うち、1 回）	(99)	(27.7%)
（うち、2 回）	(47)	(13.1%)
10 回～20 回未満	24	6.7%
20 回～30 回未満	9	2.5%
30 回～40 回未満	0	0.0%
40 回～50 回未満	1	0.3%
50 回～60 回未満	2	0.6%
60 回～70 回未満	1	0.3%
70 回～80 回未満	1	0.3%
80 回～90 回未満	0	0.0%
90 回～100 回未満	0	0.0%
100 回以上	1	0.3%